加工業務用タマネギ栽培大規模生産者の収量向上

対象者　大規模タマネギ生産者

【普及活動のねらい】

甲賀地域の加工業務用タマネギの産地強化を図るため、令和 2 年度までの活動において、加工業務用タマネギの目標収量である 10a あたり 4t 以上を生産できるモデル農家を 2 戸育成しました。令和 3 年度からは、産地の収穫量を底上げするため、総作付面積約 8ha の約 6 割を占める 30a 以上の農家を対象に、目標収量を実現するうえで課題となるべと病対策として、治療効果のある殺菌剤を中心とした予防防除・早期防除の実践、早植え栽培や直は栽培などの適期定植の実施について継続的に支援しました。

【普及活動の内容】

令和 5 年産タマネギは、2 月下旬からの高温や、早くからべと病の発生が見られたことから、情報誌の配付や現地巡回を行い、今まで実施されていなかった春先からの治療効果のある殺菌剤の予防散布を根気よく何度も提案しました。また、前年度には保存中の腐敗が課題になったことから、収穫前に灰色腐敗病や軟腐病などに効果のある殺菌剤を散布するよう提案しました。

直は栽培を実施した生産者については、収穫が適期に実施されるよう、収穫時期の判断を支援しました。

収穫調査の様子

【普及活動の成果】

令和 5 年産タマネギについては、予防防除や早期防除の必要性を理解し防除の意欲が高まったことで積極的に防除が実施されました。予防散布や治療効果のある薬剤のローテーション散布を実施されたことで、べと病の発生・拡大による収穫量減少を抑制することができ、対象者の平均収量が 10a あたり 5t 以上となり、対象者 7 名のうち 5 名が目標収量を得ることができました。また、地域の中核的な生産者が収穫量を伸ばしたことや、腐敗対策により廃棄が減少したことで、加工業務用タマネギの出荷量も当初の予想を上回る結果となりました。

今後は現地巡回と情報誌の配付を継続し、べと病やアザミウマ類などの対策を啓発するとともに、近年の夏場の高温条件下で、生育が不安定になりがちな育苗の支援を実施していきます。

◎対象者の意見

ようやく大きなタマネギが収穫できて、満足している。今後は、青果用のほどよい大きさのタマネギが安定して収穫できるよう技術を向上させていきたい。（生産者　0 氏）